

水 団 扇



日本の知恵、
プラスチックの知恵

涼感を楽しむ団扇

夏の風物詩に数えられる、鮎漁の鵜飼いで有名な岐阜県の長良川。夕刻になると、夕涼みを兼ねて観覧船に乗った観光客は、舳先に篝火を吊るした鵜船に乗った鵜匠と鵜が繰り出す漁を楽しみます。明治時代、その観光客の土産として作られていたのが「水団扇」。耐水性の高い素材でつくられた半透明な美しい団扇で、川面の水をつけて扇ぐと気化熱で涼しく感じられることから、その名前がつけられました。

地元産の竹と、金魚や草花などの夏柄を透かし入れた丈夫で薄い雁皮紙がんどしを素材に使い、天然のニスを両面に塗って丁寧に作られる水団扇は、製作工程に手間がかかるため、貴重な伝統工芸品となっています。

この水団扇に秘められた、美しい伝承の技術と自然の素材を大切にした歴史と文化の融合。住ベシート防水株式会社も、街や建物を守る防水事業を通して、その美観と耐久性を守り、人々の暮らしを快適にする技術を広げています。

サンロイド
DN
防水システム®

